

乳腺内分泌外科

乳腺内分泌外科部長 健診センター副センター長 石川智義

◆ 診療体制と患者構成

診療科スタッフ

石川智義：乳腺内分泌外科部長 健診センター副センター長

原 尚人：非常勤（筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科）

指導医・専門医・認定医等

石川智義：医学博士、日本外科学会専門医、日本甲状腺学会専門医、日本乳癌学会認定医、内分泌・甲状腺外科専門医、介護支援専門員、つくば市介護認定審査会合議体長、日本医師会認定産業医、日本医師会認定健康スポーツ医、つくば市医師会裁定委員、茨城県糖尿病登録医、茨城県医師会禁煙指導者、茨城県医師会死体検案医、認知症サポート医

◆ 診療科紹介（概要）

当科では、乳腺、甲状腺、副甲状腺、副腎およびリンパ節の各疾患についての診療を行っている。診療体制は常勤医師（石川智義）1名、手術担当の非常勤医師として、原尚人医師（筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科）および当院研修医を配し、乳がん健診部門および診療部門に分けて実施している。日本乳癌学会の乳癌関連施設および日本内分泌外科学会の認定施設の各施設認定を受けている。

乳がん健診部門については、触診、超音波検査、マンモグラフィを組み合わせた一般の乳がん健診のほか、市町村、企業および人間ドックで施行される乳がん健診を実施している。乳がん患者の増加に伴い、乳がん健診の重要性が増し、健診受診者も増加あり、乳がん健診部門は健診から外来への円滑な橋渡し役を担っている。2020年5月7日の健診センターリニューアルに伴い、女性フロアが新設され、さらに充実した体制で臨んでいる。

診療部門では、外来診療（月曜日午前・火曜日午後・金曜日午前午後）、手術療法、入院および外来での化学療法、近隣医療機関と協力して進行乳癌患者に対する緩和ケアおよび在宅緩和ケアの支援を実施している。乳癌術後の上肢挙上訓練および患側上肢浮腫の防止に対してはリハビリテーション科と連携をして、リハビリテーションの推進を行っている。がんリハビリテーションを積極的に推進すべく手術患者の周術期のリハビリテーション行なっている。術前癌患者では口腔外科と連携して口腔ケアを実施している。

甲状腺疾患については、当院耳鼻咽喉科との手術を含めた診療連携を、発展著しい甲状腺癌の化学療法の分野では筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科との診療連携を、甲状腺原発悪性リンパ腫の分野では血液内科と診療連携を行っている。

腎性副甲状腺機能亢進症患者に対する副甲状腺全摘術（以下PTx）については、薬物療法の台頭に伴い適応患者の減少傾向があり、当院腎臓内科および近隣の透析病院と手術患者の紹介、術後患者の通院加療などの診療連携を進めている。生体腎移植前のPTx患者の受け入れもはじめている。

乳腺疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患ともに医療機関からの紹介患者が増加傾向にあり、今後も各疾患についてさらに個々のニーズにそった診療を進めていきたいと考えている。

診療と合わせて、本年はCOVID19感染症対策のため中止を余儀なくされたが乳癌術後患者の会であるリボンの会や多職種との臨床病理カンファレンスの開催、乳癌術後患者のADLの向上に努める活動に努めている。癌終末期の在宅緩和ケアについては介護保険を導入して、患者の残された時間が実りあるものとするためにACP（Active Care Planning）を重視し、地域医療機関、訪問診療医師、訪問看護師との連携を密にして在宅での看取りや、レスパイト入院などを積極的に支援する体制を取っている。

◆ 実績報告

I 乳がん健診部門

人間ドック・企業健診・市町村の乳がん健診・個人単位の希望者に対する乳がん健診および当院の職員健診（マンモグラフィ健診）を実施した。乳がん健診は、触診+マンモグラフィ、触診+マンモグラフィ+超音波検査の2コースとした。超音波健診を希望される方が増加する傾向にある。また、健診結果も健診日に健診者に説明をしている。健診センターのリニューアルから2年を経て順調に健診者が増加している。

健診部門実績（2021年4月～2022年3月）

乳がん健診部門の実績は以下のとおりである。

【1】各乳がん健診ののべ総数

マンモグラフィ健診：	1461例
乳腺超音波健診：	1389例
触診：	517例

【2】乳がん健診の総合判定

乳がん健診受診者総数 （人間ドック・企業健診も含む）：	2031例
--------------------------------	-------

異常なし (カテゴリー1) :	681例
乳腺症 (カテゴリー2) :	1170例
要精査 (カテゴリー3以上) :	180例
(最終診断として乳腺症:154例、乳管拡張および乳腺嚢胞:25例、線維腺腫:4例、乳癌:6例(重複症例を含む))	
【3】職員健診(マンモグラフィ健診) :	241例
異常なし (カテゴリー1) :	132例
乳腺症 (カテゴリー2) :	144例
要精査 (カテゴリー3以上) :	4例
(乳管拡張症:1例、乳腺症:3例(重複乳癌:1例(重複症例を含む))	

II 診療部門

1. 外来診療

外来診療では、視診・触診・穿刺吸引細胞診・乳頭分泌物細胞診・針生検などを施行し、検査結果説明・治療経過などの説明および指導、化学療法・周術期患者の診療・外来手術などを行っている。本年度は昨年同様、紹介患者数も乳腺疾患および甲状腺疾患ともに増加している。

当科では手術患者および化学療法患者ともに入院期間が短期であることが多いこともあり、外来診療への比重が増してきている。

外来部門実績

外来部門の実績は以下のとおりである。

【1】外来診療の症例数

(1) 乳腺疾患

「1」乳癌(術前、術後、進行癌) :	222例
「2」授乳期乳腺炎 :	20例
「3」乳腺症・乳管拡張症 :	102例
「4」乳管内乳頭種 :	6例
「5」線維腺腫 :	11例
合計 :	361例

(2) 甲状腺疾患

「1」甲状腺癌 :	11例
「2」甲状腺濾胞腺腫 :	6例
「3」腺腫様甲状腺腫 :	42例
「4」バセドウ病 :	6例
合計 :	65例

(3) 副甲状腺疾患

「1」原発性副甲状腺機能亢進症 :	3例
「2」続発性副甲状腺機能亢進症 :	4例
合計 :	7例

(4) その他

「1」リンパ系疾患 :	6例
「2」(胸部疼痛を伴う)骨粗鬆症 :	8例
「3」(疼痛を伴う)肩関節疾患 :	4例

合計 : 18例

2. 入院診療

入院診療では主に手術患者および化学療法患者に対する診療を行っている。化学療法は3日間の短期入院により、外来のみの化学療法では回避しがたい副作用によるリスクの軽減に努めている。

乳癌手術患者、甲状腺癌手術患者では術前後に癌リハビリテーションを当院の理学療法士(PT)および職業訓練士(OT)に協力していただき実施している。また、乳癌および甲状腺癌手術患者、では歯科口腔外科との連携し、口腔ケアを実施している。

在院日数は本年度も昨年同様、乳がん患者では12.0日(術前2.0日および術後10.0日)、甲状腺患者では10日(術後2.0日および術後8.0日)、化学療法患者は3.0日であった。

本年度は外来と病棟の連携を強化し、患者情報を円滑に移行しあうシステムの構築を看護部、リハビリテーション部などの関連部門との協力を得て実施した。今後とも連携システムを進化させていきたいと考えている。

3. 手術

乳腺疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患ともに医療機関からの紹介患者が増加傾向にあり、今後も各疾患についてさらに個々のニーズにそった診療を進めていきたいと考えている。乳腺疾患、甲状腺疾患ともに増加傾向にある。とくに乳癌患者の症例数の増加は顕著となっている。乳癌の診断に必要な不可欠な診断手技である乳腺腫瘍超音波ガイド下吸引術(CNB: Core Needle Biopsy)およびVAB; Vacume Assisted Biopsy)および手術のべ件数も増加することとなった。続発性副甲状腺機能亢進症に対するPTxは薬剤治療の進歩により、減少傾向にあるが、PTx以外には治療できない症例もあり、PTxの価値が見直されつつある。今後ともさらに社会の医療ニーズに沿った手術を目指していきたいと考えている。

手術実績

手術症例実績については以下のとおりである。

手術実績数(2021年4月~2022年03月まで) :

(1) 乳腺疾患(重複例を含む) :

小計57例(悪性疾患:50例、良性疾患:7例)

{1} 乳腺腫瘍切除術(良性) :	7例
{2} 乳腺腫瘍切除術(悪性) :	4例
{3} 乳房部分切除および センチネルリンパ節生検術 :	14例
{4} 乳房切除術 :	26例
{5} 腋窩リンパ節郭清術 (センチネルリンパ節生検術後) :	6例

(2) 甲状腺疾患（乳腺外科症例+耳鼻科症例）：	
小計22例（悪性疾患：10例、良性疾患：12例）	
{1} 甲状腺葉切除術（悪性）：	8例
{2} 甲状腺葉全除術（悪性）：	2例
{3} 甲状腺葉全除術（良性）：	12例
(3) 副甲状腺疾患：	
小計2例（続発性副甲状腺機能亢進症：2例）	
{1} PTx：	1例
{2} 移植副甲状腺切除再移植術：	1例
(4)（悪性リンパ節診断のための）リンパ節生検：	2例
(5) その他：小計154例	
{1} 皮下腫瘍切除術：	1例
{2} 乳房腫瘍針生検術：	152例
{3} 創傷処置：	1例
総計：	237例
	(重複あり)

4. 化学療法

乳癌患者の化学療法を病棟および化学療法室で実施した。

化学療法実績

化学療法実績については以下のとおりである。

乳癌化学療法（ホルモン療法を含む。重複あり）

TAC：	12例
エリブリン：	4例
フルベストラント：	32例
パルブシクリブ：	3例
Nabパクリタキセル：	2例
ハーセプチン：	15例
合計：	58例

5. その他

2021年度に行ったその他の事項については別記の通りである。

乳癌術後患者の会であるリボンの会は1ヵ月/回が会議を開催した。本年度のリボンの会の開催は残念ながらCOVID19感染症対策の一環として中止となったが、患者さまへの啓蒙活動を目的としてし、乳腺内分泌外科およびリボンの会のホームページを拡充した。

臨床検査技師、放射線技師、看護師を含めた乳腺内分泌外科CPCを3回施行し、各症例について他職種の視野で検討した。在宅緩和ケアチームも院内および在宅訪問診療の医師との連携を深め、本年度もつくば医師会の在宅ケア委員会とも連携して円滑な病診連携のスキームを形づくった。地域包括ケアに資することも視野に入れて、特にがん患者の緩和ケアについてコンサルテーションを通じて助言をおこなうシステムを目指しており、今後、発展させていきたいと考えて

いる。

業績（2021年04月～2022年03月まで）

I 学会発表

- (1) 石川智義. 在宅緩和ケアに介護保険を導入した高齢者甲状腺低分化癌の1手術例. 第33回日本内分泌外科学会. 2021年06月（長野県）
- (2) 石川智義. 脳転移を伴う乳癌終末期患者にActive Care Planningを実施した自験例の検討. 第29回日本乳癌学会学術総会. 2021年7月（横浜市）

II 講演会

- (1) 石川智義. ファイザー講演会：乳がんチーム医療セミナー vol.1. 転移再発乳癌の薬物療法におけるイブランス投与のポイント. 2021年04月（つくば市）

III 講義

下記の看護専門学校にて乳癌疾患について講義。

- (1) 筑波学園看護専門学校（2021年6月）
- (2) 土浦看護専門学校（2022年2月）